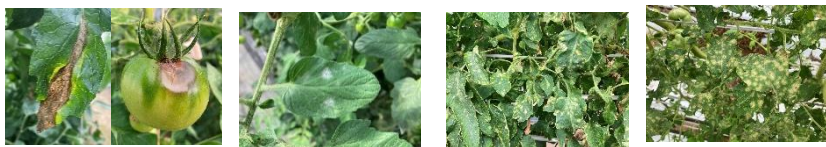


## 背景・目的

- 園芸施設栽培の薬剤防除は、スケジュール防除が行われているが、経営規模の拡大による作業量の増加から、防除が不十分となり、病害の多発を招いている。
- 病害の発生をリアルタイムに予測して、適期に散布できる防除方法の確立が求められている。

### トマトで問題となる主な病害

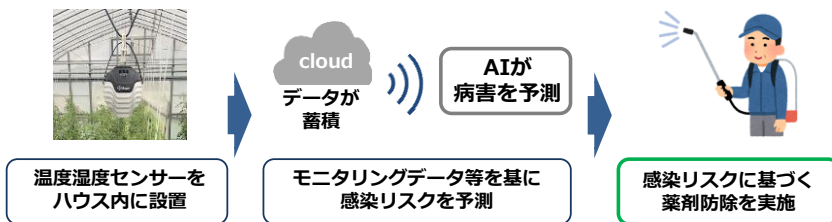


多発した場合

**収量・品質の低下**

## 研究内容・目標

- トマトでのAI予測に基づいた病害防除技術の確立
- ・AI予測に基づいた効率的な防除方法を検討



## 研究成果

- トマトでのAI予測に基づいた病害防除技術の確立
- ・AI予測に基づく防除を8月上旬まで実施することにより、病害の発生を抑え、収量・品質も慣行と同等以上が得られる。
- ・適期防除により、薬剤散布回数を削減し、省力化技術としても期待できる。

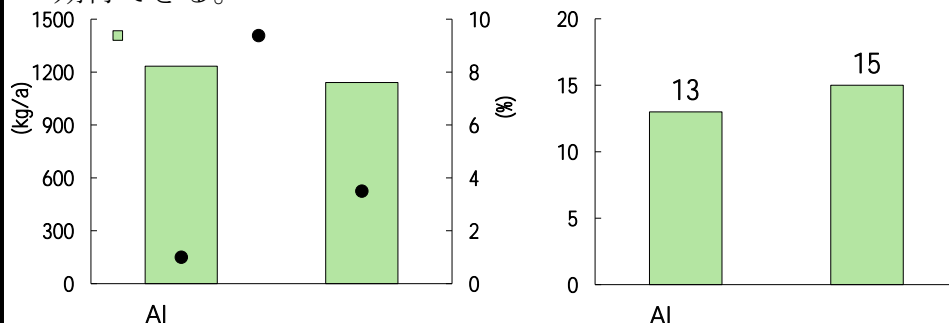


図1 商品果収量と発病果の割合

※灰色かび病に罹病した果実の割合

図2 薬剤散布回数

※ 栽培期間中の殺菌剤散布回数

### ※1 試験区の概要

AI予測：定植日～8月上旬まで AIの感染リスクに基づく薬剤防除  
8月中旬～10月下旬 慣行防除  
慣行：定植日～10月下旬 慣行防除

### ※2 試験ほ場の主な耕種概要

試験年：2023年、試験場所：秋田県農業試験場内ほ場  
栽培期間：5月11日～10月31日、品種：穂木「桃太郎8」、台木「キングバリア」  
施肥等の栽培管理は農家慣行

## 技術普及に向けた取組

- 活動実績
  - 現地研修会 3回
  - 学会講演 1回
- 達成成果
  - AI予測に基づいた防除により、慣行防除と同等の防除効果が得られ、省力化技術として期待できることを確認。